

【令和5年度 授業改善推進プラン】

板橋区立上板橋第一中学校

【国語 令和5年度】

■生徒の状況	<ul style="list-style-type: none">・全体的に落ち着いた態度で授業を受けている。・言語活動の基本となる語彙が少ない。・助詞の使い方や、文の構成を理解することが苦手な生徒がいる。・令和5年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、文章を読んで理解したことや考えたことを他者に説明することに対する苦手意識が高いことがわかった。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none">・基礎学力の定着と応用力を育成する。・読書に親しみ、語彙と文章力を育成する。・文章を読んで、理解したことや考えたことを書く力を向上させる。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none">・毎時間、学習の「ねらい」を明記してしっかり確認させる。・ノートを取り方、作文の書き方、レポートの書き方など丁寧に説明してから課題に取り組ませる。・国語の基礎となる漢字の習得に力を入れるため、漢字の小テストを実施する。また、長期休業明けには50問テストを実施する。・論説文や意見文を読ませ、そのことについて自らの意見や感想を発表させる機会を増やす。・読書や作文を通して語彙を増やす。・授業の終わりに「振り返り」を行って学習の定着を図る。

【社会 令和5年度】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に落ち着いた態度で授業を受けているが、教師の発問に対する反応が一部の生徒に集中する傾向も見られる。 ・基礎学力の定着と学習意欲に課題のある生徒がみられ、学力の二極化が進んでいる。 ・協働学習や問題解決学習に積極的に取り組む生徒が多い。 ・忘れ物をする生徒が限定されてきている。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒への対応を工夫する。（教室に授業課題や模範解答を常時掲示しておく） ・自ら課題を設定し、積極的に学ぶ態度を育成する。 ・負担にならないよう配慮し家庭学習を充実させる。 ・ICT機器をあらゆる学習の場面で積極的に活用する。 ・社会的事象に対する関心を引き出し、意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせる。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、学習の「ねらい」を明記してしっかり確認させる。 ・授業の終わりに「ねらい」に対しての「振り返り」を行って学習の定着と理解、次への課題探究を図る。 ・ICT機器を活用して、分かりやすく興味の湧く授業を展開する。 ・全学年で「丁寧なノートづくり」を重視するとともに、ワーク・プリント・小テストを適宜使用し、基礎・基本の定着を図る。 ・適切な学習課題を与え、「一人で探究する時間」と「協働で探究する時間」を組み合わせた「主体的、能動的な学び」を多く設定することで、思考力や判断力、表現力を高める。その中でも、話す表現の両面の力を育くませる。 ・個に応じた指導を充実することにより、生徒の学習状況を細かく把握し、生徒一人一人の学習意欲の向上と課題の解決を図る。 ・電子黒板やPCを有効に活用し、授業の効率化を図るとともに、多くの資料を提示して、その活用や読み取りなどの学習活動を充実させる。 ・生徒の負担にならないような予習型の課題（家庭学習）を与えることで授業理解の伸長につなげていく。

【数学 令和5年度】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の課題にしっかり取り組み、家庭学習にもしっかり取り組む生徒が増えてきたが、学習内容の定着に課題がみられる生徒も多く、中には小学校段階の基礎的な知識や技能の定着が不十分な生徒もいる。 ・令和元年度の都学力調査の観点別正答率では3観点の全ての項目で都平均を下回っている。 ・解決の見通しがもてなくなると、すぐにあきらめてしまう生徒が多い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ態度を育成する。 ・家庭学習を充実させる。 ・基礎学力を定着させるために、繰り返し学習に意欲的に取り組ませること。 ・生徒一人一人の「読み取る力」「発表する力」「互いに検討し解決する力」を高めて、課題解決能力を高めること。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、学習の「ねらい」を明記してしっかり確認させる。 ・一斉授業の中での全体に向けての講義形式と、机間指導による個別指導とのバランスをとる。 ・ICT機器やピクチャーカードを使用し、視覚に訴えながら、各授業のポイントをわかりやすく説明する。 ・生徒一人一人の学習のつまずきを明らかにして、必要な支援を行っていく。 ・学力に大きなばらつきがあるため、個に応じた指導を考慮して授業を進める。 ・個別指導の時は、学習指導講師と協力し、指導と評価と支援の一体化を図る。 ・生徒の実態に合わせたワークシートを何種類か用意し、授業の中で一人一人が意欲的に学習に取り組めるよう指導する。 ・授業の終わりに「振り返り」を行って学習の定着を図る。 ・家庭学習に取組みやすい課題を与え、一人一人丁寧に評価する。 ・フィードバック学習を活用して生徒一人一人のつまずきをなくし、基礎・基本の徹底をはかる。 ・長期休業明けには計算コンクールを実施して、数学の基礎・基本の徹底を図る。 ・数学検定の受検を奨励し、学習意欲を高める。

【理科 令和5年度】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを積極的に発言できる生徒も多くいるが、基礎的な知識や、事物や現象に対する正しい認識に欠ける発言をする生徒も多くいる。 ・授業中ほとんど発言しない生徒の中には、基本的な事柄を理解する力や、基礎的な計算能力が十分に身に付いていない生徒も見られる。 ・科学に対する疑問が少なく、自ら考えて学習しようとする意識が低い生徒が多い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物や現象に関する興味・関心をより高めさせる。 ・自然の事物や現象に関する疑問について、じっくり考え、どのような手段で答えが導き出せるかを調べる態度を育ませる。 ・昨年度の取り組みにより、知識・理解の伸びが見られるが、さらに指導内容ごとに指導方法を工夫する。 ・家庭学習を習慣化し、基礎学力の定着をはかる。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、学習の「ねらい」を明記してしっかり確認させる。 ・ICT機器などを活用して、わかりやすく興味や関心を高める授業を実施する。 ・タブレットパソコンを用いて、主体的に授業に参加し、深い学びへと繋げる。 ・教科指導の内容や評価方法の工夫について、振り返り調査を活用して、今後も改善を果たしていく。 ・実験観察方法や実験器具を工夫し、興味・関心を高め、確かな学力の定着に取り組ませる。 ・落ち着いた授業環境はすべての教科に共通するため、学校をあげて授業規律の確立に取り組んでいく。 ・授業の終わりに「振り返り」を行って学習の定着を図る。 ・家庭学習に取組みやすい課題を与え、一人一人丁寧に評価する。 ・定期的に単元の確認のための小テストを行い、習熟度の向上と学習への意欲を高める。

【音楽 令和5年度】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱活動に積極的に取り組んでいる。生徒によるパートごとの練習についても主体的に取り組んでいる。 ・鑑賞領域について、自分の考えを積極的に発言し、意見交換している。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技術の定着が難しい学級がある。授業規律も含め、授業の取り組みへの意識を高めたい。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、学習の「ねらい」を明示し、生徒に目標をもたせて学習活動に取り組ませる。 ・生徒が達成できる活動目標に毎時間取り組ませ、相互評価を取り入れることにより、友達の良さに気づかせるよう、指導の工夫を行う。 ・より分かりやすく、ポイントを押さえたワークシートづくりや板書の工夫、掲示物の改善等に力を入れる。 ・協働学習の効果的な取り入れ方を工夫し、発表につなげる。

【美術 令和5年度】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は図画工作から美術として理論的な作品を中心に作業しているので、きちんと説明を聞き、資料集を参考にして完成させている。 ・2年生は美術に対する技術や発想・構想への向上心をもつ生徒ともたない生徒の差が大きくなってしまったため、作品の完成までの時間とレベルに差がついてしまった。 ・3年生は自己解決能力が身に付き、作品も多彩になってきた。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な発想を生かし、既製のものまねにならないようにする。 ・個性の尊重を意識しているが、「自由な発想」と「好き勝手」についてきちんと分類し、作品完成への課程について正しく評価する。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、学習の「ねらい」を明示し、生徒に目標をもたせて学習活動に取り組ませる。 ・導入時に完成作品を喚起しやすいように参考資料を見せることや、作業の分からない点をなくすために板書やプリントを工夫する。 ・苦手意識を持たないように、達成感のある題材を設定する。 ・個に応じた指導を心がけ、作品完成まで粘り強く学習活動に取り組ませる。 ・自らの作品について、発想や工夫した点などを発表させる。

【保健体育 令和5年度】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対して意欲的に取り組む生徒が多い。一方で運動能力に大きく個人差がみられる。 ・各学年ともリーダーが育っており、運動が得意な生徒が得意でない生徒を積極的に教える場面も多くみられる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共に体育が得意な生徒と苦手な生徒の二極化が著しいため、個人個人に合ったねらいをたて、指導を行う必要がある。 ・特定の種目（単元）のみ得意な生徒が多い。バランスよく運動能力を高め、技術を習得させる指導を行う必要がある。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、学習の「ねらい」を明示し、生徒に目標をもたせて学習活動に取り組ませる。 ・基礎的・基本的な能力を身に付けさせながら、グループを細かく分け、能力別に指導する。 ・少人数のグループを作り、個々で教え合い、高め合う環境をつくる。 ・単元に合わせて準備運動や補強運動の内容を変更し、運動量を確保し、体力向上をはかる。 ・内容を豊富にし、多くの競技の特性に触れさせるようにする。 ・ICTを積極的に活用し、視覚的に理解を促したり、調べ学習に活用したりと、意欲的な学習に繋がるよう工夫する。

【技術・家庭 令和5年度】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や作業に興味をもち意欲的に取り組む生徒が多い。 ・説明をきちんと理解して作業することが難しい傾向が見られる。 ・自分の考えをもち、発表することが苦手な傾向が見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・更に意欲的に授業に取り組むことができるように、教材準備を工夫すること。 ・協働学習などを取り入れ、考えを共有する機会を多く設ける
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、学習の「ねらい」を明示し、生徒に目標をもたせて学習活動に取り組ませる。 ・分かりやすい説明や板書を心がける。 ・説明をより理解できるように、繰り返し確認できる映像資料などICTを活用する。 ・こまめに机間指導をし、個に応じた指導を心がける。

【外国語 令和5年度】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、コミュニケーション活動に対しては大変積極的な生徒が多く、ALTの授業の際の、Speaking Testや暗誦テストにも熱心に取り組む。一方、理解に時間がかかる文法項目に対しては、学年が上がるにつれて苦勞する生徒が増え、定期考査への取り組みには消極的になる生徒が増える。 ・全国学力・学習状況調査結果では都平均、全国平均ともに下回っている。これは、小テストなどで培った知識を維持できない、つなげて基礎力とできないのが最大の要因である。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣を身に付けさせ、自主的に学習する姿勢を育成し基礎力定着を図る。 ・生徒が達成感をもてるコミュニケーション活動を多く取り入れ、ALTの授業での積極性を評価し自主学習へつなげる。 ・ALTへの信頼感が生徒に広がっているので、できる限りプレゼンテーションの機会を設ける。 ・語彙力強化を図り、英文理解力を向上させる。 ・受験を念頭に、英作文力を向上させる。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、学習の「ねらい」を明記してしっかり確認させる。 ・定期的に単語テストを実施し語彙力を向上させる。 ・達成感の持てる自主学習教材として、新出文法のWritingの機会を増やす。 ・授業内容の補足補強となるようなわかりやすいプリント等の教材を配布し丁寧に添削する。 ・ALTの時間を中心に、ゲームやペアワークなどのコミュニケーション活動を取り入れつつ、Speaking Test、暗誦テストや会話テストで実践力を養い、ESAT-Jへの意識を向上を目指し、取り組みの積極性を評価する。 ・ICT機器を使用し、視覚に訴えながら、各授業のポイントをわかりやすく説明する。また、新出事項の導入にはパワーポイントを使用し理解度向上を図る。 ・既習事項は、各授業のWarm-up Questionなどに取り入れて、自然に反復練習できるような授業を組み立てる。 ・学習に課題のある生徒には、個別対応も可能な放課後の補習への参加を促す。 ・定期考査で課題として残った問題はやり直しレポートや結果に応じて再テストを実施する。 ・授業の終わりに「振り返り」を行って学習の定着を図る。 ・長期休業中の学習の成果を図るテストを実施して各学期の自分の課題に気づかせる。 ・英語検定の受検を奨励し、学習意欲を高める。

【総合的な学習の時間 令和5年度】

<p>■生徒の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年が学期ごとに設定したテーマに対して、意欲的に学習活動に取り組んでいる。 ・グループでの学習活動が多く、個人の学習意欲に差が出る傾向がある。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習テーマや学習内容に興味をもたせ、意欲的に取り組ませること。 ・様々な形態の言語活動を授業に取り入れ、充実させること。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験や農業体験、職場体験、ものづくり校外学習などの体験的活動、観察・実験、見学や調査などの様々な学習活動を積極的に取り入れる。 ・取り組むべき課題に対し、グループ内での役割を明確にすることで個人の学習への意欲を高める。 ・レポートや新聞の作成、発表や討論などの言語活動を多く設定する。

○ その他（言語活動の充実等）

- ・第1・2学年においては、朝学活前の10分間を「朝の読書」の時間とし、継続的に読書をする時間を確保する。
- ・図書室の充実や学級文庫の設置、読書紹介等によって生徒の読書環境を整え、読書に対する興味・関心を高める。
- ・各教科や道徳、総合的な学習の時間において、また、移動教室や校外学習、修学旅行等の学校行事の事前・事後学習において、プレゼンテーションや集団討論、レポート、新聞作成などの活動を実施する。